

緊急課題解決 5 家族の絆再生と子育てのための安心プロジェクト
(主担当部局：健康福祉部)

プロジェクトの目標

子どもの育ちにおける家族の絆の大切さが認識され、社会全体で子育て家庭を応援する取組が進んでいます。

若年層に対する早期からの相談・支援体制の強化などにより、家族観の醸成や児童虐待未然防止の取組が進んでいます。また、放課後児童対策に対する支援が進んでいます。

子育てに関する経済的支援の実施など、安心して子どもを産み育てられる取組が進んでいます。

プロジェクトの数値目標

| 目標項目 | | H23 年度 | H24 年度 | H25 年度 | H26 年度 | H27 年度 |
|-----------------------|-----|---------|---------|---------|--------|----------|
| 「みえの子育ちサポーター」認証者数(累計) | 目標値 | - | 3,250 人 | 5,500 人 | | 10,000 人 |
| | 実績値 | 1,290 人 | | | | |

各指標の H23 年度数値は現状値

目標項目の説明

・「子どもの育ちを支える」ための基本的な考え方について研修を受け、地域で子どもを見守り、子どもの活動を支える「みえの子育ちサポーター」として県が認証した人の数

進捗状況（現状と課題）

- ・ 社会全体で子育て家庭を応援する地域社会づくりをめざして、企業等への啓発チラシの配布、アンケートの送付、県広報誌への掲載などを通じ、「家庭の日」の周知・啓発を実施しています。今後、さらに、企業や県民の皆さんへ広く周知する必要があります。
 - ・ 家族や地域の絆を深める機会として、「みえ次世代育成応援ネットワーク」と連携して、平成 25 年 2 月に伊勢市で開催予定の「子育て応援！わくわくフェスタ」の開催準備を進めています。また、今年度で 4 回目となる「家族の絆 一行詩コンクール」を実施するほか、子育て中の親の悩みの共有や連携を図るため、ワークショップ形式の「親なびワーク」を実施しています。
 - ・ 放課後児童クラブ保護者ニーズ調査をふまえ全市町を訪問し、放課後児童クラブの現状や未設置小学校区の状況、制度が抱える問題点や市町の要望などについて意見交換を実施しました。今後、市町の地域状況をふまえ、引き続き、放課後児童クラブの設置が進むよう支援が必要です。
 - ・ 「思春期ピアサポーター」のサポートプログラムの作成や、若年層に対する望まない妊娠や性の悩みに対応するための相談電話として、「予期せぬ妊娠『妊娠レスキューダイヤル』」の設置や相談後の支援体制を万全にするため医療、保健、教育等の代表者会議や実務者会議を開催し準備を進めています。
-
- ・ 社会的養護を必要とする児童が、家庭的な養育環境の中できめ細かなケアが受けられるよう、児

童養護施設の小規模グループケア化の整備に着手するとともに、里親委託の促進に取り組みました。また、「三重県社会的養護のあり方検討会」を開催し、今後の方向性の協議に着手しました。引き続き、施設整備や里親委託の促進に取り組み、家庭的養護体制の充実を図ることが必要です。

- ・ 特定不妊治療費補助の経済的支援はニーズが高く、前年度より増加しています。また、市町が行う子ども医療費助成事業への支援について、本年9月から、対象範囲を小学校6年生まで拡大して実施しています。
- ・ プロジェクトの目標指標である「みえの子育ちサポーター」の養成数が10月末現在で2,181人（累計）となっており、計画に対して遅れていることから、出前講座の案内の強化など効果的な取組が必要です。

平成25年度の取組方向

「家庭の日」協力事業所として登録いただいた企業に対し、感謝状を贈呈するほか、県ホームページ等で先進事例を紹介するとともに、「家庭の日」の趣旨を県民の皆さんに広くPRをするなど、家族の絆が深まるよう取り組みます。

また、地域社会全体で子育て家庭を応援するため、新たに市町等と連携して、「みえの子育ちサポーター」の各地域での活動促進を図るとともに、企業等と協力して、「みえ次世代育成応援ネットワーク」の会員拡大と地域ごとの自主的な活動の推進に向けた取組情報の共有や会員同士の交流の場づくりを進めます。

さらに、子育て中の親の悩みの共有や親同士のつながりを促進するため、ワークショップ形式の「親なびワーク」を児童虐待未然防止の観点もふまえて、乳幼児を持つ親を重点的な対象としてリニューアルするとともに、「予期せぬ妊娠『妊娠レスキューダイヤル』」については、開設後の電話対応の検証や関係機関等との情報共有・蓄積・活用を図ります。

平成27年度の子ども・子育て新制度の本格的な施行に向けて、三重県版の子ども・子育て会議の設置に向けた取組を進めます。

そのほか、「三重県社会的養護のあり方検討会」での議論をふまえて、里親委託の促進や施設の小規模ケア化など、家庭的ケアを推進するための環境整備に取り組みます。

特定不妊治療に対する支援や市町が実施する子ども医療費助成に関する支援についても、引き続き取り組んでいきます。

主な事業

<実践取組1> 「希薄化している家族の絆の再生」を図るために

家族の絆強化事業

予算額：(24) 17,000千円 (25) 9,946千円

事業概要：多くの大人が子どもの育ちを支えていけるよう、「みえ次世代育成応援ネットワーク」の会員の拡大を図るとともに、地域での自主的な活動が進むよう、会員の取組情報の共有や会員間の交流の場づくりを行います。また、企業、団体等さまざまな主体と連携し、家族の絆が深まるようなフェスティバルを開催します。

(一部新)家庭の養育力向上事業

予算額：(24) 5,183千円 (25) 4,705千円

事業概要：子育て中の親同士のつながりを促進するため、現在、乳幼児から児童を対象に実施しているワークショップ形式の「親なびワーク」を、乳幼児を持つ親を重点的な対象に、児童虐待未然防止の観点もふまえリニューアルします。また、地域で子どもの育ちを見守り支える取組が進むよう「みえの子育ちサポーター」の養成などを実施するとともに、家族の絆を深めるため親子がお互いを思いやるきっかけを提供する一行詩コンクールを行います。

企業の次世代育成支援事業

予算額：(24) 2,822千円 (25) 2,782千円

事業概要：家庭の果たす役割の重要性について理解を深めるため、ホームページ等で県内企業における先進事例の取組を紹介するなどにより、「家庭の日」について広くPRを行います。

家庭的養護体制充実支援事業

予算額：(24) 156,866千円 (25) 60,228千円

事業概要：「三重県社会的養護のあり方検討会」での議論をふまえ、児童養護施設における小規模ケアや里親委託等の促進を図ります。

また、要保護児童が自立し、社会に出るにあたっての身元保証や未成年後見人の選定支援等を行うとともに、家庭復帰のために親子関係の改善に取り組めます。

<実践取組2>「子どもの育ちに関する課題」を解決するために

若年層における児童虐待予防事業

予算額：(24) 5,267千円 (25) 4,421千円

事業概要：思春期特有の悩みに同世代が傾聴する「思春期ピアサポーター」を養成するとともに、産婦人科等医療関係者や教育等関係団体と連携して思春期セミナーを開催し、思春期からの性に関する正しい知識の普及等を図ることで、児童虐待未然防止対策について関係者の理解を深めます。さらに、若年層の望まない妊娠への電話相談「予期せぬ妊娠『妊娠レスキューダイヤル』」による支援や、産婦人科医、小児科医、精神科医等と連携し出産前後からの妊産婦支援の取組を進めます。

放課後児童対策事業費補助金

予算額：(24) 660,671千円 (25) 821,707千円

事業概要：保護者が労働等により昼間家庭にいない児童を対象に、放課後の子どもの遊びの場や生活の場として安心して過ごせる場所を確保し、子育てと仕事の両立支援を図るため、放課後児童クラブの設置や運営の補助を行います。

<実践取組3> 「子育てに関する経済的な不安」を解消するために

子ども医療費補助金

予算額：(24) 1,830,385千円 (25) 2,345,115千円

事業概要：子どもに必要な医療を安心して受けさせられるよう、市町が行う小学校6年生までの医療費を助成する事業に要する経費について補助を行います。

不妊相談・治療支援事業

予算額：(24) 320,160千円 (25) 384,381千円

事業概要：特定不妊治療費の一部助成を行うとともに、カウンセリングにあたる不妊症看護認定看護師を増員し不妊や不育症に悩む夫婦の専門相談に取り組みます。